

## 2008年岩手・宮城内陸地震に伴う余効変動(GPS日座標値)

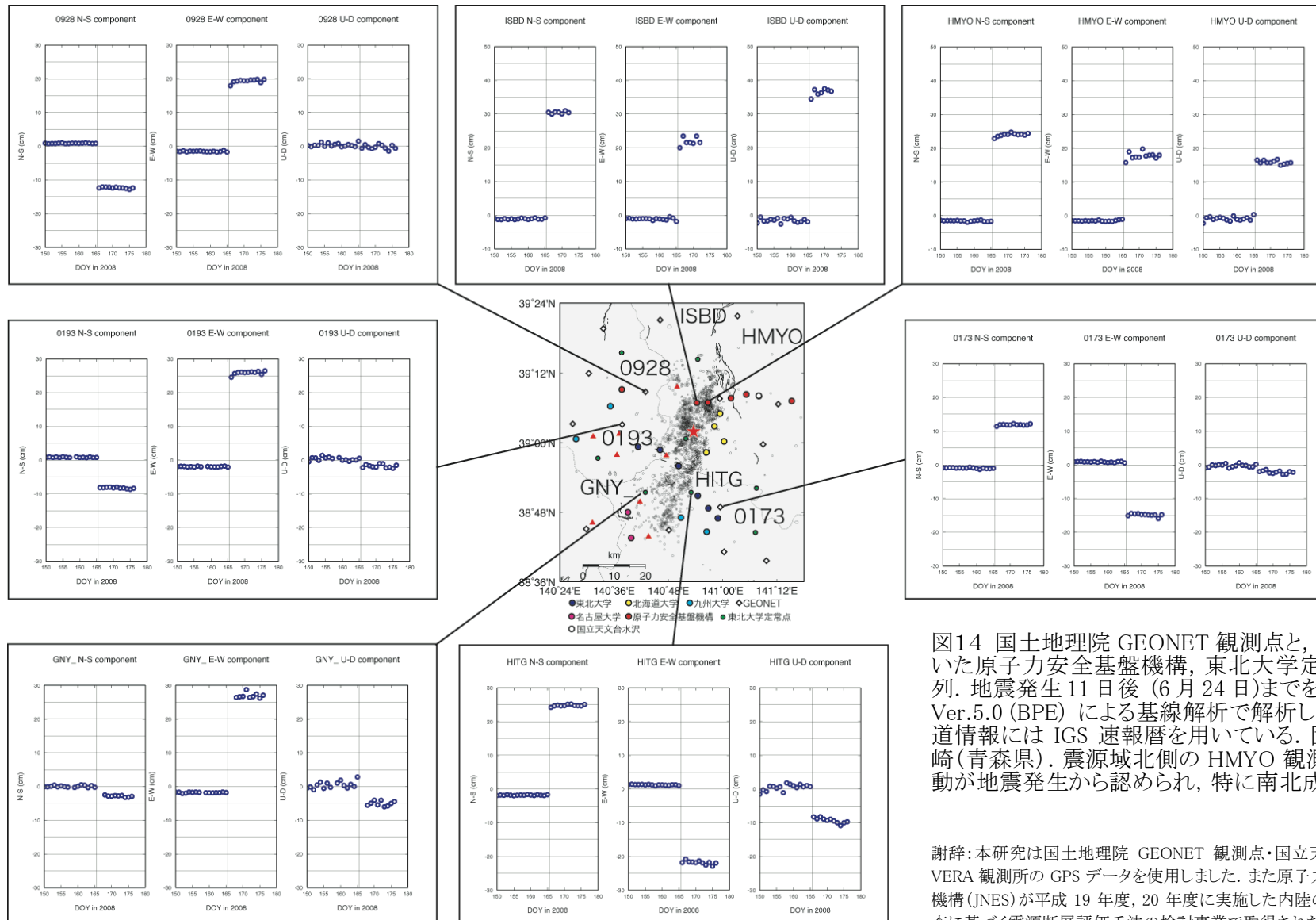


図14 国土地理院 GEONET 観測点と、地震前から設置されていた原子力安全基盤機構、東北大学定常点の日座標値時系列. 地震発生11日後(6月24日)までをBernese GPS software Ver.5.0 (BPE) による基線解析で解析した結果を示す. 衛星軌道情報には IGS 速報暦を用いている. 固定点は GEONET 岩崎(青森県). 震源域北側の HMYO 観測点等で明瞭な余効変動が地震発生から認められ、特に南北成分で顕著である.

謝辞: 本研究は国土地理院 GEONET 観測点・国立天文台水沢 VERA 観測所の GPS データを使用しました. また原子力安全基盤機構 (JNES) が平成 19 年度, 20 年度に実施した内陸の活断層調査に基づく震源断層評価手法の検討事業で取得された GPS データを使用しました. 記して感謝致します.